

## ネヘミヤ記3章 「城壁の建設」

### 1A 北の壁 1-5

### 2B 西の壁 6-12

### 3B 南の壁 13-14

### 4A 南東の壁 15-27

### 5A 北東の壁 28-32

## 本文

私たちのネヘミヤ記の学びは3章に入ります。ネヘミヤは、エルサレムに到着してから、たった一人で夜に、城壁の周りを偵察しました。その破壊されている姿、破れ口などを見ました。周囲の住民の代表者が、すでに強い嫌悪感と反発を言い表していたからです。誰にも知られないようにして偵察し、それからユダヤ人の代表者たちを集めて、このように言って励ましました。「2:17 私たちが直面している困難は見てのとおりだ。エルサレムは廃墟となり、その門は火で焼き払われたままだ。さあ、エルサレムの城壁を築き直し、もうこれ以上、屈辱を受けないようにしましょう。」それで、みなが喜び、進んでこの仕事に取り掛かることになりました。

2章では、王から許可を得た時も、代表者たちの意気込みも、「神の恵みの御手」についてネヘミヤは言及しています。彼は祈り深くし、けれどもすべての計画は、すべて主の御手の中にあり、道が開ける事に、その恵みの御手を知っていきました。私たち教会がすることも、そうですね。一つ一つの計画はあります、けれどもそこには祈りがあり、そして神の恵みの御手があるのです。

3章は、その城壁の建設です。門や城壁、そして工事にとりかかっている人々の名前が書かれています。じっくり見ていくと驚くべきことです。まず、あらゆる人々が関わっています。そして、それぞれが自分の持ち分を任されて、熱心にそれを行っています。関わらないでいる距離を取っている人々も、一部にいます。そういったことをじっくりと見て行って、まさに、キリストのからだ成長し、建て上げられていく姿に重ね合わせていきましょう。

### 1A 北の壁 1-5

1 こうして大祭司エルヤシブは、その仲間の祭司たちと、羊の門の再建に取りかかった。彼らはそれを聖別して、扉を取り付けた。そしてメアのやぐらのところまで聖別し、ハナンエルのやぐらにまで及んだ。2 その傍らではエリコの人々が建て、その傍らではイムリの子ザクルが建てた。

これから、次々と人々の名が出てきます。城壁の各部分が任されて工事に取りかかる人々の姿です。初めに大祭司とその他の祭司から始まります。羊の門は、神殿の北にある門ですが、そこ

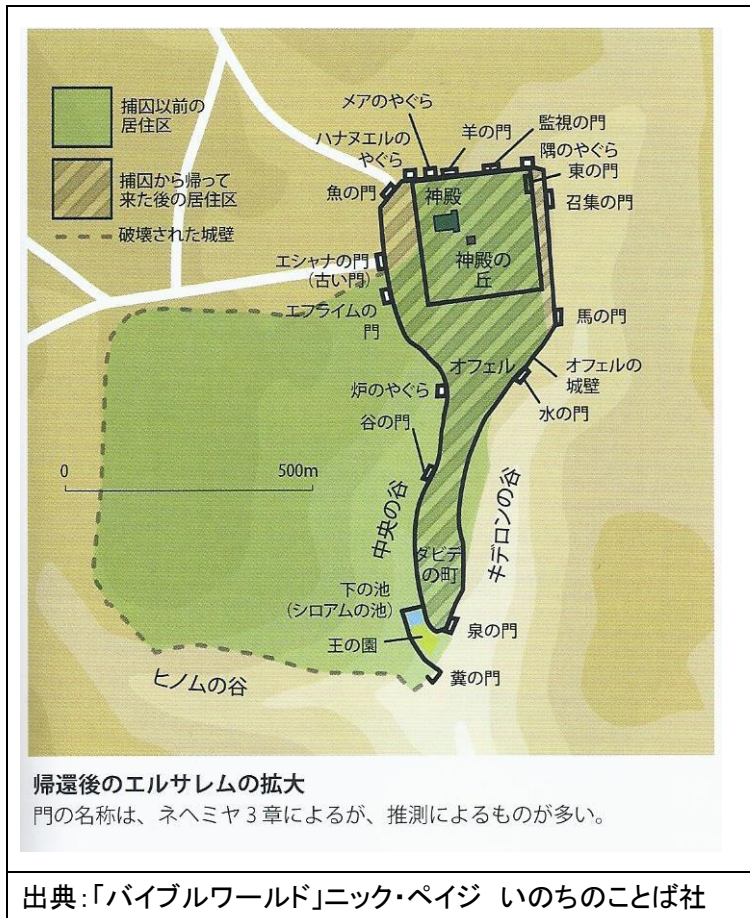
から礼拝に必要な動物のいけにえが運ばれてきます。ですから、その門を彼らは聖別してから、扉をつけました。そしてメアのやぐら、ハナエルのやぐらはその西にあります、そこまで城壁を建てます。

ここから明らかに、エルサレムという町、城が神殿、またその羊のいけにえを大切にする町であることは明らかです。神殿があるからこそこの町です。かつては、イスラエルの民は荒野で幕屋を真ん中にして宿営しました。そして幕屋の中心は、入り口から入ったところの青銅の祭壇でした。羊の門の再建を第一にして取り掛かり、それを初めに聖別したということは本当に大事です。大祭司とその仲間の祭司たちが行っています。教会でいうならば、教会というのは、礼拝そのものが第一であり、そして礼拝において、キリストの血が流されることを覚えて礼拝をするということです。私たち自身が今は、主に対する祭司になっています。「Ⅰペテ 2:4-5 主のもとに来なさい。主は、人には捨てられたが神には選ばれた、尊い生ける石です。あなたがた自身も生ける石として霊の家に築き上げられ、神に喜ばれる霊のいけにえをイエス・キリストを通して献げる、聖なる祭司となります。」

そして2節に「彼の次に」とあります。エルサレムの住民ではなく、エリコの町からはるばるやって来た人々です。この「次に」という言葉が、続けて出てきます。ここに、連携した作業であることがよく分かります。それぞれ任された分をしっかりと果たしていきます。これが、キリストの体の働きです。パウロがローマ 12 章で、このことを教えています。「ロマ 12:4-8 一つのからだには多くの器官があり、しかも、すべての器官が同じ働きをしてはいないように、大勢いる私たちも、キリストにあって一つのからだであり、一人ひとり互いに器官なのです。私たちは、与えられた恵みにしたがって、異なる賜物を持っているので、それが預言であれば、その信仰に応じて預言し、奉仕であれば奉仕し、教える人であれば教え、勧めをする人であれば勧め、分け与える人は惜しまずに分け与え、指導する人は熱心に指導し、慈善を行う人は喜んでそれを行いなさい。」

ここに、それぞれが主の恵みで与えられている賜物があり、それぞれの立ち位置でそれを熱心に用いて仕えなさいということでもあります。ここから大事なものは、「持ち分」です。人間的な表現であれば、担当者であり、責任者です。それぞれが、自分の分を主に対して行っているものとして忠実にいき、責任をもってやっていくということです。

3 魚の門はセナアの子らが建てた。彼らは梁を置き、扉、錠、かんぬきを取り付けた。4 彼らの傍らではハ・コツの子ウリヤの子であるメモテが修復を行い、その傍らではメシェザブエルの子ベレクヤの子であるメシュラムが修復を行い、その傍らではバアナの子ツアドクが修復を行った。5 その傍らではテコア人たちが修復を行ったが、彼らの貴族たちはその上役に頭を下げることはなく、工事に協力しなかった。



「魚の門」は、神殿の北西の角にあります。そして繰り返し「傍ら」がありますが、5節、テコアの町の人々が出てきます。テコアは、エルサレムから見えるぐらい近い所にあり、南にある町です。預言者アモスの故郷です。

ここで興味深いことに、「貴族たち」とありますが、これは貴族のことです、彼らは工事に協力しませんでした。必ずしもすべての人が協力しなかった訳ではありません。教会であっても、誰かは協力しないという現実があります。私たちは落胆してしまいそうになりますが、ここで踏ん張って、それでも主に任されていることを、しっかり

と行っていくのです。

## 2B 西の壁 6-12

6 エシヤナの門はパセアハの子エホヤダと、ベソデヤの子メシュラムが修復を行った。彼らは梁を置き、扉、錠、かんぬきを取り付けた。7 彼らの傍らでは、ギブオン人メラテヤ、メロノテ人ヤドン、それにユーフラテス川西方の総督の管轄に属する、ギブオンとミツパの人々が修復を行った。8 その傍らでは金細工人のハルハヤの子ウジェルが修復を行い、その傍らでは香料作りの一人ハナンヤが修復を行った。こうして、彼らはエルサレムを、幅広の城壁のところまで修復した。

「エシヤナ」あるいは、古い門は西の城壁になり、それから南に向かって分担している者たちの名が連なっています。エルサレムの周りの町々であるギブオンまたミツパから来ています。それから、銀細工人であったり、香料作りであったり、いろいろな職業の人々が工事に携わっています。これは神の民の美しさです。あらゆる職業の人たちが関わっています。ローマ時代の教会では、主人と奴隷が同じ教会に通っていたということもありました。このように、神の働きには、いろいろな職種の人があります。教会は牧師と雇われたスタッフの人たちがやるところだ、と思ったら大きな間違いです。一人一人が関わり、すべての人が関わる場所です。

そして、「幅広の城壁」ですが、これが今、エルサレムの旧市街に遺跡として発掘されています。ヒゼキヤあるいはマナセが造ったものと言われています。

9 その傍らでは、エルサレム地区の半区の長、フルの子レファヤが修復を行った。10 その傍らではハルマフの子エダヤが自分の家のそばの部分修復し、その傍らではハシャブネヤの子ハトシュが修復を行った。11 その続きの部分は、ハリムの子マルキヤと、パハテ・モアブの子ハシュブが、炉のやぐらと一緒に修復した。12 その傍らでは、エルサレム地区の残りの半区の長、ハ・ロヘシュの子シャルムが、自分の娘たちと一緒に修復を行った。

西の壁を、広い城壁よりもさらに南の部分修理しています。そして、ここに携わっている人が、このエルサレム地区の区長たちです。大祭司のような宗教指導者のみならず、行政の指導者も同じように手を動かしています。娘までがいつしよに修理をしています。指導者自らが工事をしているということが大事で、指導者は模範を示し、人々を引っ張っていきます。

ここで、「自分の家のそばの部分」とあります。これからも出てきますが、エルサレムに住む者たちは、自分たちの家に面している部分を任されています。家に近い部分であれば、そこを修理しなければいけないという強い動機付けになりますし、またわざわざ他の地区にまで行って工事することはありません。どの家に面していない部分をおそらくは、エルサレムではないところの、ユダやベニヤミンの町々に住んでいる人々に工事を行わせたのだと考えられます。

したがって、ここから分かるのは、「自分の家を軽んじない」という原則です。自分の家があってそれで城壁を固めています。家族がしっかりと信仰をもって生きているということは本当に大事です。パウロは、手紙の中で、夫婦の関係、そして親子の関係をしっかりと教えています。家族の単位で霊的に、城壁づくりをするのです。そして、このことに関連して、「自分の娘たちと一緒に修復を行った」とあります。娘たちも、土木工事に関わったのです。教会において、また家庭において、みなが何らかの形で信仰のことについて関わっていることは本当に大事です。

### **3B 南の壁 13-14**

13 谷の門はハヌンと、ザノアハの住民が修復を行った。彼らはそれを建て直し、扉、錠、かんぬきを取り付け、糞の門までの城壁千キュビトを修復した。14 糞の門はベテ・ハケレム地区の長、レカブの子マルキヤが修復した。彼はそれを建て直し、扉、錠、かんぬきを取り付けた。

谷の門は、ネヘミヤが調査を開始したところですが、そしてずっと南へと進み、南端にある糞の門までの修理をしました。今のエルサレムにも、糞の門があって、そこから嘆きの壁に入ると一番近いです。ただ当時の糞の門の場所と異なります、ネヘミヤの時代はシロアムの池のそばです。千キュビトですから、440 ぐらいの距離ですから相当長いです。城壁が少し残っていたので、長い

距離もできたのかもしれませんが。あるいは、ここでザノアハの住民とありますから、ある共同体の住民全体が駆り出されていたのかもしれませんが。人海戦術で行ったかもしれませんがね。教会でも、大掃除とか、人数が多ければ多くのことを短時間にできますね。

#### 4A 南東の壁 15-27

15 泉の門はミツパ地区の長、コル・ホゼの子シャルンが修復した。彼はそれを建て直し、屋根を付け、扉、錠、かんぬきを取り付けた。また、王の園のシェラフの池の城壁を、ダビデの町から下って来る階段のところまで修復した。16 その向こうでは、ベテ・ツル地区の半区の長、アズブクの子ネヘミヤが、ダビデの墓地のそばまでと、人工貯水池までと、勇士たちの家のところまでを修復した。

「泉の門」は、南端から少し東にある門です。そして、「王の園」はその南端にあるところです。エレミヤ書 39 章 4 節によると、ここを通過してユダの最後の王ゼデキヤは、包囲されたバビロンから逃げていきました。そして、ここは元祖エルサレム、「ダビデの町」の様々な名残があります。ダビデの墓地があり、人工貯水池があり、そしてダビデの勇士を覚える家も、ネヘミヤの時代にはあったということです。人工貯水池とは、シロアムの池のことでしょう。

17 その向こうでは、バニの子レフムなどレビ人たちが修復を行った。その傍らでは、ケイラ地区の半区の長、ハシャブヤが自分の地区のために修復を行った。18 その向こうでは、ケイラの残りの半区の長、ヘナダデの子バワイなど、彼らの同僚たちが修復を行った。19 その傍らでは、ミツパの長、ヨシュアの子エゼルが、城壁の曲がり角の隅にある武器倉に向かう上り坂のそばで、続きの部分を修復した。

東の壁を北に向かって工事分担していますが、この地域は住居区になっていたようです。住んでいる人々が工事をしていきました。そして、武器倉庫があり、エルサレムを守るため、その曲がり角のところが外敵に接するところで、使われていたということでしょう。

20 その向こうでは、ザカイの子バルクが続きの部分を、城壁の曲がり角から大祭司エルヤシブの家の門のところまで熱心に修復した。21 その向こうでは、ハ・コツの子ウリヤの子メレモテが続きの部分を、エルヤシブの家の門からエルヤシブの家の端まで、修復を行った。22 その向こうでは、低地の人々である祭司たちが修復を行った。

大祭司エルヤシブの家があります。神殿に少し近づいてきたからです。そしてネヘミヤは 20 節、バルクという男が、大祭司の家の門を「熱心に」修理したと強調しています。霊的に特筆すべきことだからでしょう。

23 その向こうでは、ベニヤミンとハシュブが自分たちの家のそばの部分修復した。その向こうでは、アナネヤの子マアセヤの子アザルヤが自分の家の近くを修復した。24 その向こうでは、ヘナダデの子ビヌイが続きの部分、アザルヤの家から城壁の曲がり角の隅まで修復した。25 ウザイの子パラルは、城壁の曲がり角の部分と、監視の庭のそばにあって上の王宮から突き出ているやぐらを修復した。その向こうでは、パルオシュの子ペダヤと、26 オフェルに住む宮のしもべたちが、東の方の水の門と突き出ているやぐらのそばの部分までを修復した。27 その向こうでは、テコア人が、突き出ている大きなやぐらのそばからオフェルの城壁までの続きの部分修復した。

家がどんどん続いています。その近くの部分の城壁を自分たちで修理しています。さらに、王宮があったところのやぐらを修理しています。かつて、ソロモンやその後のユダの王たちが住んでいたところです。26 節、「オフェルの住民」とあります。オフェルは神殿の丘とダビデの町の間の部分です。そこには、宮に仕えるしもべたちが住んでいて、彼らが東にある水の門のところを修理しました。そして、先ほどはテコア人の貴族が協力していませんでしたが、ここでは協力しているその他のテコア人がいます。

#### **5A 北東の壁 28-32**

28 馬の門から上の方は、祭司たちがそれぞれ自分の家のそばの部分修復した。29 その向こうでは、イメルの子ツアドクが自分の家のそばの部分修復した。その向こうでは、シェカンヤの子、東の門を守る者シエマヤが修復を行った。30 その向こうでは、シェレムヤの子ハナンヤと、ツアラフの六男ハムンが、その続きの部分修復した。その向こうでは、ベレクヤの子メシュラムが自分の部屋のそばの部分修復した。

馬の門は、神殿の丘の南東にある門でここから北に向かう所は、神殿の東にあります。そこは祭司たちの家が連なっていました。彼らの家に面する城壁を補強していきます。

31 その向こうでは、金細工人の一人マルキヤが、召集の門の向かい側にある、宮のしもべたちや商人たちの家のところまでと、角の二階の部屋のところまでを修復した。32 角の二階の部屋と羊の門の間は、金細工人と商人たちが修復した。

召集の門は、東の壁の北にある部分です。そして、北の壁との角があり、北の壁を羊の門までを修理しました。宮のしもべたちと商人たちが近い所に住んでいたのは、興味深いです。金細工人もいたので、これはおそらく神殿の装飾や修理などを行う時に、材料の調達を商人が行っていたからではないかと思われます。

こうやって、一気に城壁再建が進行しています。完成させるのに、52 日、つまり 2 か月弱で終わっているのです。相当のスピードだったのです。中国の武漢の郊外で十日で、新型肺炎患者のた

めの病院を建設するという話を聞いた時、本当？と思った人が多かったですが、本当にそれをやってしまいましたね。そこは、それぞれの業者がどこの部分を行うか、すでに計画を持っていて、それぞれがおのの分を果たしたからにほかなりません。これが、チームワークというものです。そして神の働きもチームワークです。自分が何をしているのか？ではなく、自分が教会に属しており、与えられた分を果たすということです。

そしてこれが敵を怒らせました。「4:1 サンバラテは私たちが城壁を築き直していることを聞くと、怒り、非常に憤慨して、ユダヤ人たちを嘲った。」敵は脅威を抱くから、攻撃します。ここを間違えてはいけません、攻撃がある時は、前進しているのです。むしろ、何の攻撃の兆しがなければ、主にあって確かな働きをしているのか？疑問に持つ必要があるでしょう。ともに奮闘して、戦うのです。「ピリ 1:27-28 ただキリストの福音にふさわしく生活しなさい。そうすれば、私が行ってあなたがたに会うにしても、離れているにしても、あなたがたについて、こう聞くことができるでしょう。あなたがたは霊を一つにして堅く立ち、福音の信仰のために心を一つにしてともに戦っていて、どんなことがあっても、反対者たちに脅かされることはない、と。そのことは、彼らにとっては滅びのしるし、あなたがたにとっては救いのしるしです。それは神によることです。」